

(件 名) 希望するすべての子どもたちにゆたかな高校教育を保障するための陳情書

(陳情の趣旨)

例年7月に行われている中学3年生の進路希望調査では、高等学校などへの進学を希望する子どもは、ここ数年95%前後と高い割合となっています。高等学校を卒業することは、さまざまな資格取得や就職の求人等に見られるように社会的な要請にもなっています。また、高等学校で支えられながら成長し、社会性を育んでいくことは、青年期の発達段階としても重要なことであると考えられます。

しかし、本県では依然として定員内不合格者が出ています。2026.3実施の一般入学者選抜(139人)は前年度に比べ倍増し、第二次入学者選抜(32人)についても3年連続して増加し、この10年で最多となり、希望するすべての子どもが高校で学ぶことを保障されている実態にはありません。定員内であるにもかかわらず進学の道を閉ざされた子どもたちは、高校で学び成長する機会を奪われています。

2025年12月26日発出の文科省事務連絡においても、「学ぶ意欲を有する生徒に対して、学びの場が確保されることは重要であり、そうした観点から、各教育委員会等においては、調査結果等を通じて、定員内不合格を出さないよう取り扱っている例を含め、他の教育委員会における入学者選抜の実施方法等を参照するなどしていただくとともに、合理的な説明となっているかについて改めて御検討いただくようお願いします」としています。文科省調査(2025.12)によると、定員内不合格を出していない自治体において「『現在の高校は、広く国民が学ぶ教育機関という性格が強いという認識に立ち、欠員のある場合あるいは欠員を生じるような場合には、検査において不正行為や妨害行為等を認めた場合を除き、不合格者を出すことのないようお願いします』と周知」した事例もあります。鹿児島県でも、学校や地域が子どもの成長を見守り保障していくことが必要です。

また深刻化する経済不況の影響から、高校教育に係る保護者負担をできる限り公費化し、すべての子どもたちに分け隔てのない行き届いた教育が保障されなければなりません。

以上のことを踏まえ、希望するすべての子どもたちにゆたかな高校教育を保障するために、下記の事項を県の教育行政に反映させるよう陳情いたします。

(署名者 14,975 人)

(署名簿一省略)

陳情事項

- 1 定員に満たない学校・学科においては、「公立」高校の意義をふまえ、入学希望者全員を受け入れるよう各高等学校長を指導すること。
- 2 教育を受けることが経済的に困難な子どもを、公的に支援するための「奨学金制度」のさらなる拡充と、奨学金利用者の負担を軽減するために、給付型奨学金の導入を検討するとともに、当面無利子とすること。